



しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

2

大人が本気で
楽しむまち
商店主の企み

みずの
水野

たかお
孝生

志免68（シメロツパチ）代表

大分県出身、52歳。志免町に住み始めて25年。
志免町志免にある床屋、Barber Shop MIZUNO店主。

『ムリなく、楽しく』を基本理念に、楽しいと思うことをやって
みよう活動中です。



志免68の誕生と、その後の広がり

篠栗町に「ササグリンク」という、地元商店主によるグループがあるのですが、そこで篠栗四国八十八箇所のお遍路さんをデザインした「88」のロゴグッズを作られたんです。そのササグリンクの皆さんと一緒に飲む機会があり、そのときに僕の正面にいたのが「88」のデザインされた方で「88ってカッコイイですね。志免なら68号線と豎坑槽ですかね」みたいな話をしていたんです。

数ヶ月後、ササグリンクの会議に呼ばれる機会があり、その時メンバーの皆さんが同じロゴデザインのTシャツを着ていたのですが、よく見たら「88」ではなくて「68」だったんです。「何ですか、それ！」と聞いたら「作ったよ。水野くんの分もあるから」と言われまして。しかもその会議の後で打ち上げに行ったお店のオーナーご夫婦も「68」のTシャツを着ていたという仕込み具合でした(笑)。

その翌朝にFacebookで「志免68Tシャツできました」と紹介したのが始まりですね。今から6年前になります。最初は仲良しの床屋7店舗でグッズ販売を始めました。僕が最初にTシャツを頂いたこと

もあり、代表になりました。

その後、志免町の飲食店などへ「68」Tシャツを着て行ったらどんどん話題になり、色んなお店でオリジナルカラーの志免68グッズが誕生していき「いいね、おもしろいね」という感じで広がっていきました。在庫を置いて販売をしたり、お店のユニフォームにしたり、活用方法はさまざまです。



ムリなく、楽しく

楽しむことで、楽しい町になる

志免68は町の公認ブランドではなく、自分たちが好きに着て楽しむものという感じです。こちらから新メンバーの募集は特にしていませんが、アプローチがあれば「どうぞどうぞ」という姿勢で、とにかく無理のない形で一緒に楽しみましょうというコンセプトで活動しています。

最初は特に「町に活気を！」という気持ちでやっていたわけではありませんでした。近頃は、出かけた先で、志免68の話題で盛り上がっている場面を見て、「いつのまにか誰かの役に立っているんだな。楽しんでくれている人がいるんだな」と感じるようになりました。町の活性化を狙ってやるというより



も、楽しいことをして楽しい町になる、結果として町が盛り上がる、自然にそうなればいいかと思っています。



自分たちの責任で、 自分たちがやりたいことをする

グッズ販売の他には「68week」（志免68グッズを着用して協力店で飲食や買物をする特典が受けられるイベント）や「タテコウヤライブ」などをしています。僕を含めた理事5名が、定期的に集まって話し合い、運営しています。

志免68ができる前から僕の店で音楽ライブをしていたんですが「68」グッズができて、せっかくデザインに竪坑櫓があるから、竪坑櫓のある広場でライブができないかと話していました。

それが「タテコウヤライブ」が始まるきっかけです。開催にあたっては志免町の皆さんも色々と協力してくださいました。

このような志免68主催イベントでは、助成金や補助金、協賛金は受けず、チケットの売上げやグッズの売上げなど、全て自費で運営を賄っています。商店同士の個人的なつながりで、僕たち自身が楽しんでやることなので、人様のお金は使わず、自分たちでお金を調達して、責任を負ってやろうという考えです。チケットも完全手売りですから、自然と顔がつながっていきます。

5回目はコロナ禍で中止でしたので、しっかりと考える時間がありました。来年からは、コロナの対策をして、子どもから大人まで楽しめる、開放的な屋外で実施する音楽とアートのイベント「タテコウヤライブ」を続けていきたいと考えています。



子どもたちの個性が浮かび上がる 「68塗り絵プロジェクト」

「68塗り絵プロジェクト」については、今年もイオンモール福岡で年明け(2021年)に開催予定です。これは志免町の小学4年生を対象に、志免68のロゴの塗り絵を、子どもの感性で自由に仕上げてもらうという企画で、今回で3回目の開催となります。

町の学校教育課へ相談したところ、校長会で町の全小学校へ提案することができ、実現しました。

子どもたちに、楽しみながら自然に地元愛を育んでもらいたいと思って実施しています。塗り絵を通して、竪坑櫓や志免町に愛着を持ってもらえたらいいなと思っています。



こうなったらいいなと思う 志免町の姿は？

大人が本気でバカなことをして楽しめる町だったら、きっと子どもにも楽しい町だと思うんですよ。なので、志免68のコンセプトでもある「ムリなく、楽しく」という姿勢で、しかめっ面よりも笑顔をたくさん生み出して行って、志免町がより元気になっていけばいいなと思います。



取材を終えて

水野さんのお話から、本当に楽しんで活動されている様子が伝わってきました。「ムリなく、楽しく」というコンセプトのもと、きちんを責任を負うことを（自然と）意識しているから、周りの協力や参加を引き寄せているのかなと感じました。

